

2025年度 牧田小学校研修計画

1 昨年度の反省から出てきた児童の課題

- ①話すこと・聞くことに関して基本的なこと(声量・姿勢等)が身につけていない
- ②相手意識をもって話そうとしたり、話し手の意図をとらえて聞こうとしたりすることができない。
- ③語彙がすくないため、自分の思いや考えを適切な言葉で表現し、伝えることができない。
→表現力、伝える力が乏しい。
- ④学びに生かそうとする姿が乏しい。

2 児童の課題と学習指導要領との関連(解説資料 P29)

- ①話合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)
- ②構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有(聞くこと)
- ③構成の検討、考えの形成(話すこと)

3 研修計画について

(1) 研究主題

**伝え合う力を高める「話すこと・聞くこと」の指導の工夫
～対話的な学びを通して～ 教科:国語**

(2) 研究仮説

「話すこと・聞くこと」の指導を工夫することで、児童の伝え合う力を高めることができるのではないかと考えます。

(3) 目指す子ども像について

- 低学年 — ・相手にわかるように、行動したことや経験したことに基づいて、順序だてて伝えることができる子
・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、感想を伝えようとする子
- 中学年 — ・相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら筋道を立てて、伝えることができる子
・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえ、自分の考えを持ち、質問や感想を伝えようとする子
- 高学年 — ・相手に目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫することができる子
・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめ伝えようとする子

(4) 研究主題に迫るための手立て

ア 研究の内容

①場づくりを工夫すれば、話しやすく聞きやすくなり、伝え合う力が育つのではないか。

- ・ICTの活用 ・課題の設定 ・教材の工夫 ・目的意識を持った話し相手
- ・雰囲気づくり ・話し合う人数 ・席の配置 など

②話し合いに向けた事前の活動を工夫すれば、相手を意識しながら話したいことを正確に伝えられるようになり、何を聞くべきか考えなが聞けるようになるのではないか。(個別最適な学び・協働的な学びとの関連)

- ・ICTの活用 ・思考ツール ・ワークシート ・話をつなぐための言葉(話型を含む) など

イ 普段の生活で気を付けたい児童への働きかけ

①話を聞くときは、児童の手を止めさせ、何も手に持っていない状態にさせる。話し手は、顔が話し手のほうを向いてから話をする(させる)。

②話したことに対して質問や意見がないかを問いかける。質問や意見は話が終わった最後に受け付けるようにする。質問する意識を持たせる。

観点1 いくつかのことを伝えたのか。

観点2 5W1H いつ、どこで、だれが、何を、どのように、どうした

観点3 自分の考えとの共通点、類似点、相違点

③児童へ伝えたい教師の言葉がけ

「複数の意見を出そう」「間違いはないよ」「どんどん意見を言おう」

ウ 研究に関連した取組

①言語環境の向上

読書、掲示物(話型など)

②他教科との連携

生活科、総合的な学習の時間での発展的な取組

③基礎学力の向上のための手立て

音読・漢字練習・主語述語などの文法の繰り返し指導、日記指導など

④語彙を増やすための手立て

辞書の活用、読書、読み聞かせ

(5) 研究の検証について

①児童アンケート

児童に国語に関するアンケートを実施する。項目は、目指す子どもの姿を中心としたものにする。

②学力調査・みえスタディチェック

全体的な数値だけで改善状況を見るのではなく、課題とされているポイントが改善されていったか注目する。

③授業における児童観察

話す様子・聞く様子（話す・聞くための事前の取組を含む）、ワークシート、自己評価を元に、児童の成長や課題を見取る。